

2-9 天体写真教室を企画するには？

日本には写真の文化があります。美しい天体写真を自分のデジタルカメラで撮影してみたい、と思う人もたくさんいます。天体写真教室は、天文入門層や写真を趣味とする人にとって関心の高いイベントになるでしょう。

ステップ1 講師をしてくれる写真家を見つける

この企画は講師を探せるかどうかにかかっています。天体写真のプロはほんのひと握りですが、アマチュアでも天体写真家を名乗る人がいます。写真集や天体写真の本、天文雑誌、ウェブ検索などで探してみましょう。

天体写真といっても幅広いジャンル(*脚注)があります。その人の作品を見れば、どのようなジャンルに取り組んでいるかがわかります。

もしご自分に技術や作品があれば、自ら講師になりましょう。

ステップ2 相談しながら企画を固める

講演会開催のノウハウが参考になります。しかし一般的な開催形式がないので、講師に何をしてほしいのか、相談前に要点をまとめておきましょう。

高価なカメラを人数ぶん用意することは通常は困難です。参加者に持参してもらったり、携帯電話での撮影会を実施している例もあります。

写真展と組み合わせる例もあります。

ステップ3 会場・設備をよく考える

準備は講義形式にするか、実習形式かによってまったく異なります。撮影実習をする場合は、観望会開催のノウハウも参考にします。

入念に準備すれば撮影後にすぐにプリンタで出力しておみやげにすることもできます。

作品紹介の方法は講師によりますが、スライドプロジェクタやデジタルプロジェクタがよく使われます。



天体写真の撮影方法のレクチャーにはいろいろな形態が考えられます。上は大きなスクリーンを使った講演形式の実施例、右は実習形式の実施例（インド）です。世界の特別認定企画のひとつ The World At Night のイベント紹介資料から。



ステップ4 広報する

天体写真教室は関心層を絞ったイベントですので、広い地域から参加者を募りましょう。地元メディアだけでなく、天文雑誌、カメラ雑誌、新聞、ウェブなどでも早めに広報を展開しましょう。

イベント名も重要です。「デジタルカメラで月面を写す方法教えます」など、内容を具体的に想像できるイベント名が好ましいといえます。

脚注

* 天体写真のジャンルの例：

- ・星空と地上風景で構成する「星景写真」
- ・星空の一角を切り取る「星野写真」
- ・天体望遠鏡で惑星表面の模様をねらう「惑星写真」
- ・新天体や天体の変化を追いかける「観測写真」

ちなみに、特別認定企画の TheWorld at Night は世界の星景写真のコレクションとなっています。